

目標を定めて取り組もう！

経済面のみならず、社会文化・環境の3本の柱を設定し、来訪者から「また来たい」と選ばれ続け、観光振興を通じて市民が豊かで暮らし続けられる持続可能な観光立市の実現を目指していきます。

そのため、計画期間終了時(令和8年度)に、将来像がどの程度実現されているかを測るための指標を定めました。

	最終目標 (KGI ⁵)	定量評価指標 (KPI ⁶)
経済分野	観光消費額 32.1 億円 ⇒ 50 億円 (H30)	消費額単価 日帰り客 +200 円 / 年 宿泊客 +250 円 / 年
		入込客実人数 H30 基準で約 9% / 年 UP (H29 と同水準) 527 千人 ⇒ 724 千人
		観光入込客延べ数 H30 基準で約 4% / 年 UP (H29 と同水準) 1,113 千人 ⇒ 1,274 千人
		宿泊客延べ数 H30 基準で約 4% / 年 UP (H29 と同水準) 126 千人泊 ⇒ 146 千人泊
		来訪者満足度 日帰り客 47.7% (R3) ⇒ 70% 宿泊客 75.6% (R3) ⇒ 76%
		リピーター率 日帰り客 63.4% (R3) ⇒ 65% 宿泊客 54.4% (R3) ⇒ 55%
		経済分野 KSF ⁷ (KGI 達成のための鍵となる要因)
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">自地域のファンであるリピーター旅行者の誘客</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">高単価で質の高い旅行者の誘客</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">観光地としての認知度の向上</div> </div>		
社会文化分野	歴史・文化振興施策に関する市民満足度 25.9% ⇒ 30% (R3)	日本遺産認定の市民認知度 52% (R3) ⇒ 60% 龍源寺間歩入場者のガイド利用割合 30.1% (R3) ⇒ 40%
	社会文化分野 KSF (KGI 達成のための鍵となる要因)	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">観光を通じた歴史・文化財の理解や認知度の向上</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">歴史・文化財の観光資源としての保全や振興</div> </div>		
環境分野	自然環境保全施策に関する市民満足度 19.0% ⇒ 20% (R3)	環境保護活動に参加する市民数 648 人 (R3) ⇒ 700 人 環境負荷の少ないモビリティ利用者数 9,255 人 (R3) ⇒ 26,000 人
	環境分野 KSF (KGI 達成のための鍵となる要因)	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">自然環境・生態系資源の観光資源としての保全・保護</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">観光を通じた環境負荷の軽減</div> </div>		

⁵ Key Goal Indicatorの略
⁶ Key Performance Indicatorsの略
⁷ Key Success Factorの略

大田市新観光振興計画 改定版

発行：大田市産業振興部観光振興課

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口 1111 番地
TEL 0854 - 83-8192(直通) FAX 0854-82-9150

概要



詳しくは、計画書本編をご覧ください



大田市マスコットキャラクター「らとちゃん」

大田市すべての人のための観光を通じた地域づくりの羅針盤

大田市新観光振興計画

改定版

2023-2026

オール大田で
取り組もう！



01 この計画のポイント！

本計画では、観光振興の位置づけを明確にし、「5つの基本方針」と「3つの重点エリア」の設定、「重点エリアにおける地域プレイヤーを核とした観光まちづくり体制づくり」により、各種観光施策を通じて、観光振興の課題解決に取り組めます。

POINT

なぜ観光振興に取り組むのかを明確に

観光振興を経済政策として位置づけ、課題解決にむけて基本方針を設定しています。

- 組織体制の構築
- 戦略的なマーケティング¹
- 観光地ブランディング²
- 受入環境の整備
- 広域連携とインバウンド³

POINT

観光地域づくりを進める3つの重点エリア設定

地域で精力的に活動する地域プレイヤーを中心に観光地域づくりを進めます。

- 【重点エリア】
- 三瓶エリア
 - 大森エリア
 - 温泉津エリア

POINT

地域プレイヤーを核とした体制づくり

行政、民間、関連団体間の役割分担の明確化、重複業務の一元化を検討します。

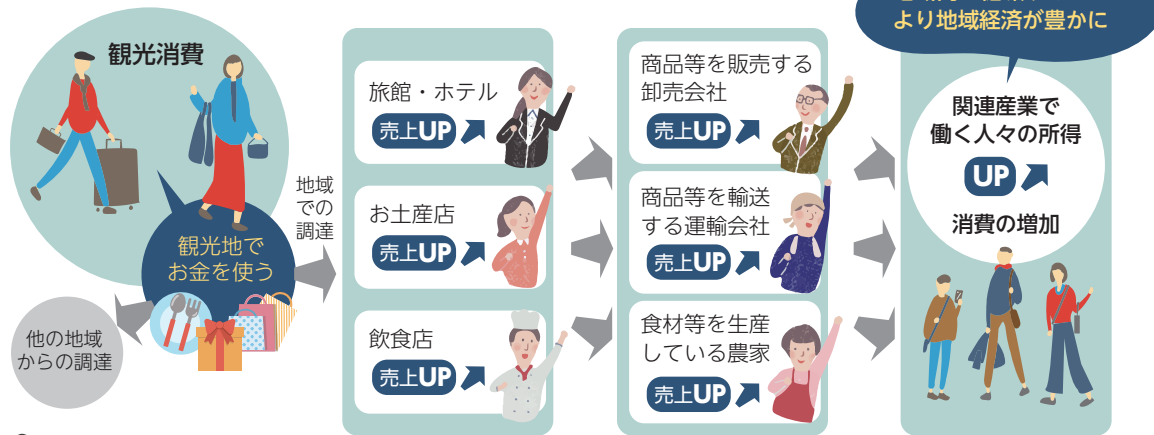
地域プレイヤー組織を核とした観光まちづくり実行組織の形成とマネジメントシステムの再構築を検討します。

¹ 顧客のニーズを探るための市場調査・分析、それらにもとづく商品企画・開発、開発した商品を知ってもらうためのプロモーションなどの商品やサービスが売れる仕組みをつくること
² ターゲットに対して価値やイメージを高く認知してもらうための取組
³ 外国人が訪れてくる旅行のこと

なぜ観光振興に取り組むの？

本市の人口は今後20年間で約3割減少すると推計されています。
人口減少とそれに伴う個人消費の減少は、地域経済を停滞させるだけでなく、私たちの暮らしにも大きな影響を与えるかもしれません。
その様な課題の解決策として考えられるのが「観光振興」です。
観光は「裾野の広い総合産業」といわれおり、旅館やホテル、飲食店だけでなく、運輸業、農業、水産業、農水産品加工業など様々な産業へと広く波及し、「地域経済にいい循環」を創りだします。
観光振興により、本市の豊かな自然と歴史文化に恵まれた観光資源にさらに磨きをかけ、積極的に活用していくことが、地域経済や地域活動の維持につながるのです。

図. 観光がもたらす地域経済への波及効果のイメージ



どんな体制で取り組むの？

「三瓶エリア」「大森エリア」「温泉津エリア」の3つの重点エリアでは、地域のプレイヤーを中心とした観光まちづくり実行組織により、地域特性を活かした観光地域づくりを進めます。
そして、重点エリアでの観光地域づくりの活動を通じて、大田、波根、仁摩をはじめとする他のエリアにもその効果を波及させ、「オール大田市の体制づくり」の構築を進めていきます。

3つの重点エリアにおける観光まちづくり実行組織は、エリアごとの地域課題解決にむけたミッションを遂行する観光地域づくりのプラットフォームとして、地域のステークホルダーとの連携・合意形成を担う



なにを目指して取り組むの？

「基本理念(なぜ?)」「将来像(どんな将来)」を共有し、「行動指針(どうやって?)」と5つの基本方針を定め、オール大田市で施策を進めていきます。

基本理念 (なぜ?) 「将来像」をめざすのか

観光振興を通して市民が豊かで幸せに暮らし続けられるまちをつくる

めざす姿 (将来像)

地域の独自性を磨き上げ、『共創観光都市』を目指す

めざす姿を実現するための行動指針

1. まちに住む人々の暮らしとの調和と、観光を通じた人々との交流により、生活文化をよりよく発展させることをめざします。
2. 経済と文化のバランスを採ることで、質の高い観光消費を促し、住民が豊かに幸せに暮らし続けていくための地域経済の活性化をめざします。
3. まちの魅力を誇りとし、地域の価値を高めあう人づくりをめざします。
4. 自然環境や文化を守り遺し、価値を次世代につなぎます。

5つの基本方針

将来像の実現に向けて、I～Vの5つの基本方針を定め施策を進めていきます。
3つの重点エリアでは、エリアごとの観光地域づくりのめざす姿を定め、重点的に取り組みます。

I. オール大田市で観光地域づくりができる体制づくり	個々の取組が相乗効果を十分に発揮し、戦略的な観光地域づくりを推進できる組織づくりを行います。また、市民一人ひとりが本計画について理解し、観光振興の取組をオール大田市で取り組めるよう意識醸成を図ります。	1 観光地域マネジメント組織の構築	3つの重点エリア
		2 インナープロモーション ⁴ の推進	
II. 戦略的なマーケティング	本市独自の資源を活かし、ターゲットやニーズに合わせたサービスや商品を作成するとともに、戦略的なプロモーションを展開します。また、ターゲットに応じた効果的な情報発信を行います。	3 ターゲットの明確化とニーズの把握	三瓶エリア
		4 滞在型の観光商品づくり	
		5 地域食・特産品の充実	
		6 まつりやイベントの活用と魅力発信	
		7 教育旅行の誘致	
		8 ターゲットにあわせた情報発信・プロモーション	
III. 観光地域としてのブランディング	歴史や文化、自然等からなる本市の多彩な観光資源をもとに、高い付加価値を創造し、長く過ごしたくなる魅力づくりを行い、リピーターの確保に努めます。	9 エリアのブランドイメージづくり	大森エリア
		10 観光を担う人材育成	
		11 市民総ぐるみのおもてなし向上	
		12 地域の魅力を学ぶ機会の拡大	
IV. 計画的な受け入れ環境の整備	観光施設や道の駅等の適正管理や機能充実など、計画的な受け入れ環境の整備を検討します。また、周遊性を高めるための交通利便性の向上や歩いて楽しい賑わいのある空間を創出することで、「また来たい」と思われる、環境づくりを推進します。	13 観光地の受け入れ環境整備	温泉津エリア
		14 交通利便性の向上	
		15 景観の保全	
V. 広域連携とインバウンド観光の推進	山陰圏域、出雲圏域、石見圏域及び共通の資源を有する関係市などとの広域連携を図り、周辺観光地と一体となった観光地域づくりに参画することで本市への観光客誘致につなげます。また、今後地方部への市場拡大が期待されるインバウンド観光の受け入れ体制を構築します。	16 周辺地域との連携強化	重点的に取り組むことめざす姿
		17 共通する資源による連携	
		18 インバウンド受け入れ体制の整備	

詳しくは、計画書本編をご覧ください

⁴ 組織内の意思統一や士気の高揚、意欲の喚起などを目的として組織内の構成員に向けて実施されるプロモーション本計画では、市民向けに実施されるプロモーションのことを言う